

はつちの医師会の手紙

NO. 660

令和6年8・9月号

八戸市医師会



巻頭言 コロナ禍後の救急医療

(表紙題字：元八戸市医師会理事 小坂 康美)

目 次

☆巻頭言☆

コロナ禍後の救急医療	吉村 有矢	3
令和6年7月定例理事会		4
令和6年8月定例理事会		13

☆学 術☆

第295回青森県南皮膚科医会学術講演会		24
第479回八戸外科集談会		25
第631回八戸胃腸研究会		26
第107回弘前医学会総会		27
青森県医師会生涯教育講座		29
第32回日本乳癌学会学術総会		30
第60回日本小児循環器学会総会学術総会		31
第46回日本産婦人科医会性教育指導セミナー全国大会		32

☆倶楽部だより☆

八戸市医師会ゴルフニュース（第4報）		35
八戸市医師会ゴルフニュース（第5報）		37
トラホーム講習記念集合写真	高橋 秀禎	38
人・ひと		42
八戸市休日夜間急病診療所利用状況		43
ドイツ留学思い出昔話48. 出身教室への恩返し (弘前大学皮膚科学教室員の海外留学推進)	橋本 功	44
デーリー東北新聞社提供		47
八戸市医師会立八戸准看護学院令和7年度学生募集要項		49
研修～リレー日誌～		50・51・52・53
理事紹介		54
八戸市医師会誌投稿規定		59
会員消息		60
事務局日誌メモ		60
行事予定		61
編集後記		62

巻 頭 言

コロナ禍後の救急医療

八戸市立市民病院 救命救急センター所長

吉 村 有 矢

コロナ禍が明けたようだ。新型コロナウイルス感染症は5類感染症となり、我々はコロナ前の日常生活を取り戻そうとしている。しかし、救急医療はコロナ前の状態に戻れないでいる。

2023年の全国の救急車の出動件数は763万7,967件（前年比5.6%増）で過去最多となった。青森県でも60,200件（前年比7.2%増）、八戸消防本部でも過去最多の15,222件（前年比1,302件増）となった。救急車の需要がひっ迫している。不要な救急要請、受診を減らす取り組みとして青森県でも「あおもり救急電話相談（#7119）」が2024年8月から開始された。一方で、救急車が現場に到着するまでの時間も延長し続けている。助けるべき命が危ない。2024年8月、八戸消防本部では平日の日中だけ出動する「日勤救急隊」の試行運用を開始した。消防の救急出動の約1割を占めているのが施設間搬送であり、このための救急出動も減らさなければならない。

八戸市立市民病院では「病院救急救命士」による病院の搬送用救急車を用いた施設間搬送を運用しており、その件数は年間300件を超えるペースに増加している。2024年の診療報酬改訂では、「救急患者連携搬送診療料」が新設され、救命救急センターに救急搬送された救急患者に対して入院3日目までの地域の医療機関への病院搬送車による転院搬送に算定できるようになった。この背景には、コロナ禍をきっかけにして救急車を受け入れる病院が全国的に減少し、救急出動が増えただけではなく、その搬送先が特定の病院に集中するようになっていることも問題になっている。

八戸市立市民病院の2023年の救急搬入件数は約7,500件となり、過去最高を記録した。これは東北地方では、仙台市立病院、岩手県立中央病院に次いで3位の数字である。八戸ERの前

には日常的に救急車が行列をなすようになった。約30年前に建設された病院の救急外来は手狭になり、近年、話題になることの多い水害対策とともにERの拡張が望まれている。増え続ける救急搬送患者の大半は高齢者である。医療・ケアに対する意思決定プロセスとして「ACP（Advanced Care Planning）」が注目されるようになり、この地域でも徐々に普及してきている。ACPを踏まえて心肺蘇生を望まない高齢の心停止患者が救急要請された場合に、患者の意思を尊重して救急隊による心肺蘇生を中断し、かかりつけ医等に引き継ぐことができる「DNARプロトコール」が全国で導入され始めている。青森県でも県が主導して現在、検討中である。

八戸救命は、コロナ禍後の救急医療の荒波に立ち向かって進化を続けている。2023年の厚生労働省の救命救急センターの充実度段階評価では、最高評価のS評価を3年連続で取得した。評点は北海道、東北地方で1位である。全国から若手医師が研修のために八戸に集まり、2024年8月には過去最高の救急医師数である24名体制となった。今年度から開始された「医師の働き方改革」と整合性をとりながら、地域の救急医療を守るために日夜、奮闘している。ドクターヘリ、ドクターカーを活用して、もっと遠くまで、もっと多くの患者のために、まだ我々にはできることがあるはずである。八戸市医師会の先生方からの厚いご支援に感謝を申し上げたい。